

品川支部

令和元年9月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

九月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

全教一斉にをいがけデー28日 支部おつとめ総会29日

今年、品川支部は二十八日、三ヶ所で
全教一斉にをいがけの中で会長路傍講演が

- 五反田駅前
- 大井町線大井町駅前
- 西大井駅前

で行われます。時間はそれぞれの会場とも、
十時からですので、応援お願いいたします

続いて29日（日）はおつとめ総会

二十九日十時から櫻京分教会で行います(詳細2P)
品川支部では支部内に住まわれている教友との
おつとめと、懇談を一番の目的として、十一時半からは
お昼ご飯、模擬店等飲み放題で、しばしの時間、楽しく過
して頂けるよう用意しております。
どうぞお誘い合わせの上おいで下さい。

☆支部行事のお知らせ

- ・支部幹事会
九月九日(月)午後六時〜(都南にて)
- ・教区ひのきしん(九月五日(木)十七日(火))
当番は櫻京組です。十七日霊舎ひのきしんと
二度ありますので宜しく願います
- ・神名流し
九月一日(日)午前十時〜
場所 大井西口ロータリー

・在宅センターひのきしん
九月二十七日(金)午前九時半〜

・全国一斉にをいがけ教会長路傍講演
九月二十八日五反田・大井町・西大井

三箇所の駅前にて

・支部おつとめ総会
九月二十九日(二頁参照)

☆教務支庁からのお知らせ

・婦人会創立百十周年会員決起の集い

春から教区では十二箇所の会場で決起の集
いを進め、七月十四日の時点の集計では
四千四百四十二名の参加を頂きました
まだ、数力所の会場がありますので、参加の
ほど宜しく願っています。

・第二十九回女子青年大会教区バス

教区では十一月三日の大会に合わせて前日
二日にバスを出しますのでご利用頂けます
直属教会が遠い方等、お申し込み下さい

・少年会・学生担当委員会

恒例の『真夏の勉強会』が八月
十七日に行われ、小学生十八名
中学生十五名が参加して楽し
く夏休みの宿題等二十名以上の
学生の指導のもと、次々とこなし
ていきました。

又高校生の集い「まなびば」と言
う事で九月七日から八日の二日
間秩父大教会の「わかばの里キャ
ンプ場」で行われます。

・すきと講座のお知らせ

七日の十時教務支庁に集合です
九月二十一日十三時半から
「神様と宇宙と科学の楽しいお話」
と題して大人から子供まで参加
できる講座が教区で開催されま
す。一般の方にもお勧めの講座で
す。

・支部内教会のイベント案内

支部内の日本橋大教会では、今年
創立百三十周年記念行事が九月
二十二日に、真柱奥様と大亮様ご
夫妻をお迎えして開催されるとの
ことです。

拠点教会	1日号	8日号	15日号	22日号	29日号
日本橋	手配り	手配り	手配り	手配り	直送
本 荏	直送	手配り	手配り	手配り	直送
南 泰	手配り	手配り	手配り	手配り	直送
三ツ木	手配り	手配り	手配り	手配り	直送
水豊田	直送	手配り	手配り	手配り	直送

時報手配り九月予定

品川支部おつとめ総会

令和元年9月29日 (日)

場所 櫻京分教会

(品川区西品川1-16-5)

内容 座りづとめ 十二下り

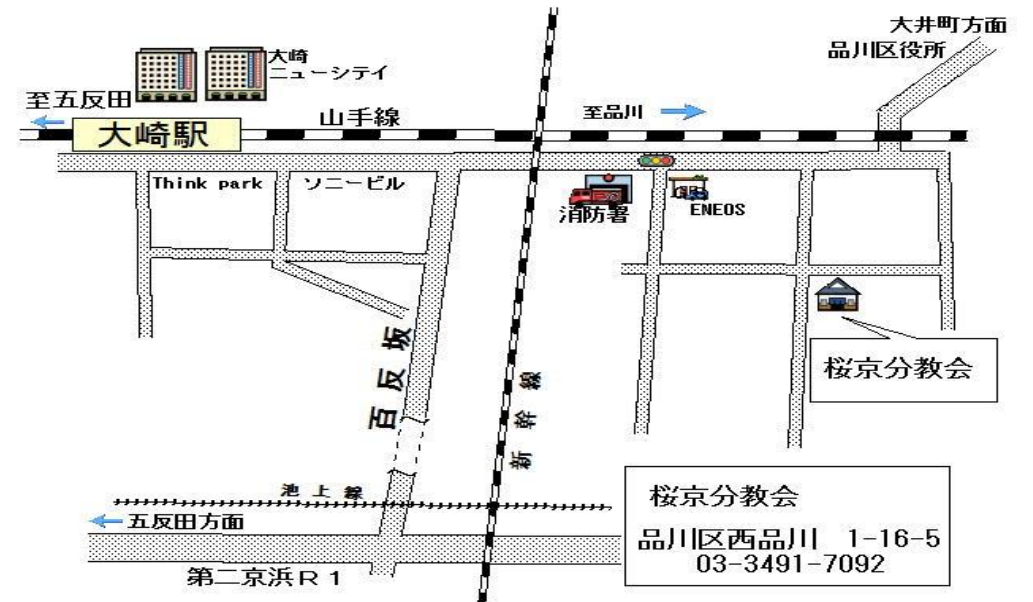
(十時開始)

支部活動紹介

昼食は豪華模擬店、飲み放題

*どなたでもおつとめに参加

(白足袋ハッピー着用)



私の信仰

神品川分教会後継者



神品川分教会の後継者の浅田一善と申します。ご命をいただきましたので、少しく私の信仰について書かせていただきます。私の信仰は、祖父である浅田高作(神品川三代会長)によるところが大きいと思います。祖父は背が高く、男前で、おしゃべりな人でした。祖父は自分に男の子が生まれなかったため、内孫で男の子の私が生まれたとき、飛び上がって喜んでくれました。一善という名前も祖父がつけてくれました。祖父は私を大変かわいがり、おぢばはもろろんのこと、上級や大教会、信者さんのお宅にも私を連れて歩きました。小さいうちに、祖父が連れて来ていたため、大きくなってから多くの先生方から、「昔よく来てたね」と声をかけていただきました。

お道をそれほど強制されなかったためか、おつとめやおぢばがえりにも抵抗なく参加していました。

月日はすぎ、私が大学四年生の時、それまであまり病気をしたことなかった祖父が、具合が悪くなり、病院に入院することになりました。私は進路が決まっていなかったこともあり、祖父から「修養科に行つてはどうか」という言葉をもらい、四月から三か月修養科に行くことにしました。修養科では、祖父の身上回復を祈りながら、お道の教えを学ばせていただく日々でした。六月に無事修養科を修了しましたが、続けて大教会で青年をしてはどうかと大教会長様から言われ大教会に行くことになりました。大教会で青年中の七月に祖父が危篤だという連絡が入りました。私はすぐに大教会のある大阪から東京へと帰りました。祖父は、人工呼吸器をつけて、とても苦しそうな状態でした。

私は、すぐにおさづけを取り次がせていただきました。それからしばらくして、祖父はすーっと息を吐いて出直しました。悲しさもありましたが、その時に上級の会長様から「この節を生き節にしたい」とのお言葉をいただき、さらにお道を通らせていただくこうと思えました。私の勝手な考えですが、祖父は割となんでも一人でやってみようところがあつたので、いつまでも自分がいては、私たちが成人できないと姿を隠したのではないかと感じました。また、これまで祖父にかけてくれた思いを感じ、その恩に報いたいと思えました。

その後、十月に祖母もなくなるという大節でしたが、その中にも私は講習前期、青年会ひのきしん隊、後期講習とお道を深めさせていただきました。教会のほうでは、母が四代会長に、その後、三年して父が五代会長と続いて、教会長を務めてくれていきます。私は、布教の家や上級青年を経て、今は介護の仕事をしていきます。

昨年、母が六十五歳で出直すという節をいただき、どうしたことかと、悲嘆にくれていましたが、支部の先生方の温かい励ましをいただいで、また少しずつ、前を向いて、道を通らせていただきたいと思っております。

続いてあってこそ、道と言う。続かん事は道とは言わん。言えようまい。
(明治三十九年五月二十一日)

浅田一善

